フィリア・レター

～真の友人からの手紙～

発行：中部ろうさい病院
〒455-8530
名古屋市港区港明 1-10-6
TEL 052-652-5511
FAX 052-653-3533
http://www.chubuh.johas.go.jp/

新型コロナウイルス感染症の今昔物語
～感染対策の基本は、今も昔も変わりません～

感染管理室　感染管理認定看護師　福原　順子

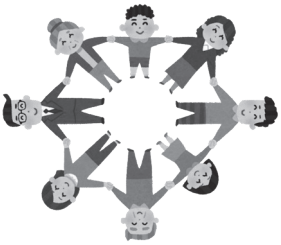
新型コロナウイルス感染症は、2019年12月初旬に、中国の武漢で第1例目が報告されました。それからわずか数か月で世界的大流行となりました。

そこで少し、昔と今を比べてみましょう。当初、新型コロナウイルスはまったく未知のウイルスであったため、治療や予防薬がありませんでした。この時は、感染者のうちの５％が重症化し、亡くなられる方もみえました。有名人が亡くなられたのも衝撃のニュースだったのではないでしょうか？

今では、ウイルスの研究も進み、ワクチンや治療薬の開発により、新型コロナウイルス感染による重症化を防止しやすくなりました。また、隔離期間も見直され、検査で陰性確認されるまで⇒14日⇒10日⇒7日と短縮されています。

新型コロナウイルスに関連した言葉も数多く作られました。当初は、新たな変異株が見つかると、その国の名前を付けられ、イギリス株やブラジル株や南アフリカ株等と言われていましたが、今ではギリシャ文字で表記するようになり、デルタ株やオミクロン株が猛威を振るっていたのは、記憶に新しいと思います。ソーシャルディスタンスやクラスターなんて言葉も、定着しましたね。その他にも、今では、あまり使われなくなりましたが、ステイホームやロックダウン、オーバーシュートなんて言葉もありました。

医学の世界は日進月歩と言いますが、まさに、状況は目まぐるしく変化しています。日本も、withコロナに向けて、様々な政策を打ち出し、何とかこのコロナ禍からの脱出を図ろうとしています。そんな目まぐるしく状況が変化する中、今も昔も変わらないのは、基本的な感染対策であり、手をきれいにすること、口や鼻を守ることであり、ほかの人に拡げないことです。withコロナになったとしても、そこだけは変わらず、正しい方法で実践することを続けていきましょう。早く、皆さんの笑顔が、見られる日が来ることを、切に願っています。



今月号のお知らせ

1 新型コロナウイルス感染症の今昔物語
…感染管理室　感染管理認定看護師　福原　順子
2 紙面健康セミナー
肺がんについて～診断から治療までの流れ
……呼吸器内科部長　竹山　佳宏
3 紙面健康セミナー
～肺がんの手術、今は小さな傷でできますよ～
……呼吸器外科部長　中川　誠
4 病院からのお知らせ
病院の理念・当院の基本方針、編集後記

肺がんについて～診断から治療までの流れ

呼吸器内科部長　竹山　佳宏

肺がんは年間約７万人が死亡しており、がんの中で最も死亡数が多く、治療が難しい病気とされています。原因の約７割はタバコと言われていますが、喫煙習慣が全くない方でも発症することがあります。自覚症状が出現した際には病気が進行していることが多く、中高年の方は年１回程度の定期健診を受けることをお勧めします。また、タバコは病気の発生にも治療にも悪影響を及ぼすため、禁煙が重要です。

画像上、肺がんが疑われた場合、まずは組織を採取して確定診断をつけるところから始まります。確定診断がついた後は、病期（ステージ）を決めるために全身の評価を行います。手術が可能な症例に関しては、呼吸器外科に治療を依頼します。

手術ができない場合には、呼吸器内科で治療を行うことになりますが、当科では主に薬物療法と放射線療法の併用療法（化学放射線療法）、薬物療法を中心に治療を行っています。化学放射線療法は根治を目指す治療となりますが、薬物療法は根治を目指す治療ではなく、病気の進行をなるべく抑え、少しでも寿命を延ばすことが目的となります。

薬物療法については、ここ数十年で格段に進歩し、分子標的治療薬、免疫療法といった新たな薬剤の登場で、人によっては長期の延命効果が得られるようになっています。ただ、全ての方がこの治療の適応となる訳ではなく、肺がんの組織型、特定の遺伝子変異があるかどうかによります。

肺がんの治療については、日本肺癌学会から出されているガイドラインでほぼ標準化されていますが、年齢、合併症、全身状態などから標準治療の実施が困難な例もあり、実際の治療については、主治医と患者さんおよびそのご家族と十分に話し合った上で、決定していくことが重要となります。

～肺がんの手術、今は小さな傷でできますよ～

呼吸器外科部長　中川　誠

肺がんの手術と聞くと、どんなイメージでしょうか？

「肺がんの手術なんて、痛そうだし、息も苦しそうだから、体力がある人しか無理なんでしょ？」と思われるかもしれません。確かに、以前は、開胸手術（図１）と呼ばれる、皮膚を20～30cm切り、ろっ骨も切って、肺を直接見ながら行う手術がほとんどでした。皮膚を大きく切るのでどうしても手術のあと痛みが続き、痛み止めがないと生活できない方や、痛みで息がうまく吸えず息苦しさを感じる方もおられました。

しかし、近年、肺がんの手術方法は大きく変わり、胸腔鏡下手術（図２）と呼ばれる、わきの下に１～２cm程度の穴を３～４個あけ、その穴から入れたカメラを見ながら行う手術が主流となっています。胸腔鏡下手術は傷が小さいため、開胸手術と比べ術後の痛みがかなり少ないです。最近は、さらに痛みや身体への負担が少なくなるように、単孔式手術（図３）と呼ばれる、３cm程度の穴を１つあけるだけの手術も行われるようになってきています。

当院では肺がん手術の90％程度を胸腔鏡下手術で行っております。また、小さい肺がんに対して単孔式手術も積極的に行っております。

痛みや身体への負担を減らせる傷の小さな手術は、持病のある患者さんや80歳以上の患者さんにも安心して受けていただけます。「体力がないから手術は無理だ」とあきらめる前に、お気軽に中部ろうさい病院呼吸器外科へご相談ください。

図１　開胸手術

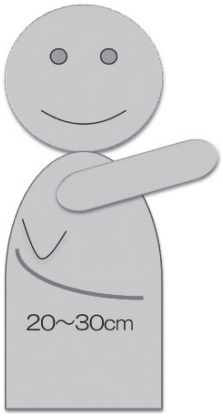


図２　胸腔鏡下手術

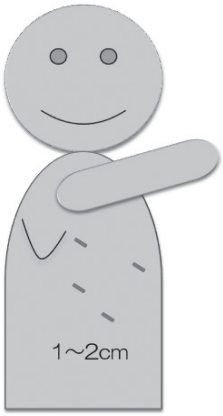
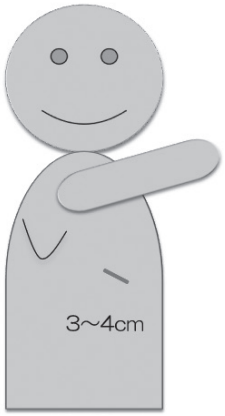


図３　単孔式手術



病院からのお知らせ

～健康レシピに関する書籍を出版しました～

当院の糖尿病内分泌内科・栄養管理部共同で「中部ろうさい病院オリジナル～いつまでもおいしく食べたい健康レシピ～」を発刊いたしました。

本書は、中部ろうさい病院で実際に提供したメニューのみで構成したレシピ集となっており、栄養バランスのよい献立の組み合わせ方法や健康の秘訣を紹介しています。

また、当院における肥満や糖尿病の治療の取り組みについても、わかりやすく解説しています。

現在、院内１階カフェ・ド・オアシス、Amazon、近隣書店で発売中です。

ぜひ、お手に取り、ご覧ください。

★三省堂書店 名古屋本店にて「趣味・生活」部門で９月２日～９月８日の売り上げ１位★

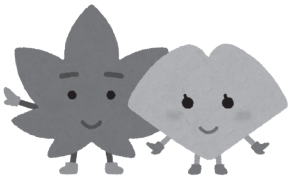
当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- 医療の質の向上と安全管理の徹底
- 生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- 人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- 地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- 災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

～ 編集後記 ～

爽やかな秋風が感じられる季節となりました。今号では、感染対策の注意点や肺がんの治療、そして健康レシピ本の出版をご紹介しました。

「食欲の秋」という表現がありますが、健康的な食事を心がけましょう。